

南ア・尾白川下流域の氷曝



【日時】2009年1月13・14日【メンバー】L岩田・田邊・石井・高橋(文・写真)

久し振りのここ尾白川だが、今回は少々時期が早すぎたようだ。先発の前夜発組岩田・田邊Pが幕を張ってくれていた定位置の「錦滝」横の東屋に、後発の石井・高橋Pが到着したのは昼頃何と「錦滝」はジャージャー水が流れ落ちている。氷も出来たてのツララが垂下がっている氷結して、登れるにはまだ2週間は後だろうか？とあれば、この上のF2だ。登攀準備をして錦滝を右から小さく巻き、滝上に出てF2に向かう。ここもいつもの大きさはないが登るには十分氷が着いている。暫くして「ベータールンゼ」で遊んでいた岩田君達が合流してしばし楽しむその夜は北海道土産の「松尾ジンギスカン」をタラフク頂いて、実に楽しいひと時を過ごす



左:ガンガノ沢F2を登る石井君
右:F2を登り来る岩田君

翌日は早起きして「刃渡り沢」へ向かう。スーパー林道は各所で落石や岩の崩壊で道が塞がれた状態になっていて、このまま放置されれば早晚「通行禁止」の措置が取られるのでは？と心なる。一時間ほどで終点に。ここから私が嫌いな、尾白川への急降下が待っている。3人は平気の平左で飛ばしている。私は慎重に、息を切らせて河原に降り立つ。尾白川を少し遡り出合



出合には薄いながらも氷結を見た。
氷を壊さないように静かに歩を運ぶ。



「大ナメ滝」手前の小滝をフリーで



「大ナメ滝」の水は薄く、
バイルが岩の当たりそうで
神経を使わせられる



この日の「双翼ノ滝」はまだまだ成長過程。完全に両翼をひろげた姿で我々を迎えてはくれなかった。田邊君を除く我々3人はあっさり巻きを考えていたが、田邊君一人は氷に近づいて執拗観察…。実に左壁から一部ドライツリングでツララに取り付くラインを見出しいざ取付いてみると結構難しそうだ。しかし、苦勞しながらも登りきりTRをセットしてくれた。ここで上の「大滝」はカットし、入浴してから帰路に着いた。



左: 岩壁からツララに乗り移らんとする田邊君の奮闘



右: 核心部を抜け、やや傾斜の緩んだ氷を楽しむ



登るルートが見えれば後はこのメンバーならばお茶の子さいさい…。各自が自分の得意なムーブで楽しむ

左: 石井君
右: 岩田君

